

お稽古場での心得

日本舞踊のお稽古は、心身一体の鍛錬です。美しい心が美しい身体を創ります。踊りの技巧はもとより、礼儀も心がけましょう。

- 一、お稽古場に来たときは、玄関で上着を脱ぎ、履物をそろえて上ります。
- 一、まず、お稽古場のふすまを座って開け、先生や先に来ている人たちに挨拶をします。着替える人は、挨拶をしてから着替えましょう。
- 一、着替えは、すばやく済ませ、髪はまとめてください。時計、指輪、ネックレス、イヤリングなどの貴金属品は、すべて外しましょう。
- 一、お稽古場での私語は慎みましょう。たとえ控え室でも、騒がないこと。
- 一、自分の順番が来たら、後の人に「お先です」と言い、舞台上に上ります。正しい姿勢で座り、先生に「お稽古お願いします」と、丁寧にお辞儀をしてください。
- 一、お稽古中は、先生の全身が見える位置、即ち先生の下手（右側）、三歩下がったところに立って習います。
- 一、お稽古には、お稽古扇子（2本）、手ぬぐい、を準備しておきましょう。
- 一、お稽古扇子は、とても大事なものです。暑くても、稽古扇子で煽ぐことはいけません。大切に扱いましょう。
- 一、お稽古が終わったら、先生に「お稽古ありがとうございます」と座ってお辞儀をし、後の人に「お先でした」と一礼しましょう。
- 一、時間があればできる限り、お稽古を見学するようにしましょう。
- 一、お稽古場では常に礼儀を守り、師を敬い、先輩を立て、後輩の面倒を見るように努め、和を心がけましょう。
- 一、帰るときは、みなさんに挨拶をしてから帰ります。